

速報版

# 中高生の 英語学習に関する 実態調査 2014

グローバル化の進展など社会の変化が進む中、小学校における英語教育の拡充強化、中高における英語による言語活動の高度化、大学入試の4技能化など英語教育改革の検討が進んでいます。ベネッセ教育総合研究所では、2014年3月に全国の中学1年生から高校3年生を対象に、英語学習の実態や意識に関する調査を実施しました。本調査は、「第1回中学校英語に関する基本調査（教員調査／生徒調査）」（2008、2009）、「中高生に対する聞き取り調査」（2013）の実施・分析による課題把握を経て、今回、子どもの実態や意識に深く切り込むことにより、改めて英語の指導と学習の課題を明らかにすることを目的としています。

## CONTENTS

調査概要	2
基本属性	2
調査の枠組み	2
「中高生に対する聞き取り調査」(2013) から見えてきたこと(一次分析)	3
1. 中学校入学前の英語学習	4
2. 現在の英語学習	6
3. 英語学習に対する意識	10
4. 英語に関する意識や関わり	12

# 調査概要・基本属性・調査の枠組み

## 調査概要

### ●調査テーマ

中高生の英語学習の実態と意識に関する調査

### ●調査方法

郵送法による自記式質問紙調査

### ●調査時期

2014年3月

### ●調査対象

全国の中1生～高3生 6,294名 (有効回答数)

\*中1生 1,057名 中2生 1,028名 中3生 996名  
高1生 931名 高2生 790名 高3生 1,433名  
学年不明 59名

\*調査依頼は、東京大学・社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所の共同研究「子どもの生活と学び」プロジェクトの調査モニターと非モニターに対して行った。そのため、回収率はモニターと非モニターと分けて算出している。

\*モニター 配布数 4,021名、回収率79.2%  
非モニター 配布数 14,800名、回収率21.0%

### ●調査項目

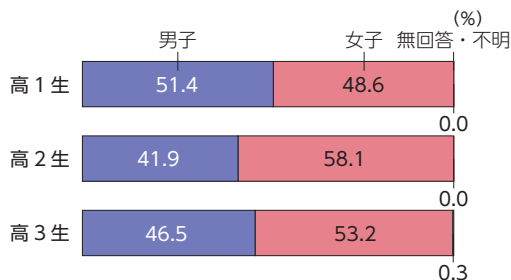
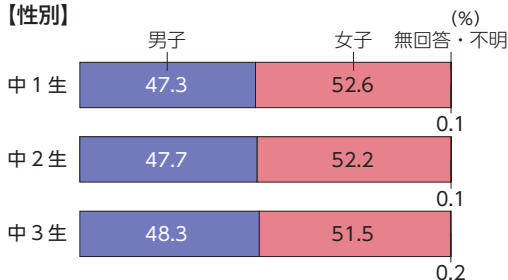
幼少期の英語体験・学び／小学校英語・学校外学習の役立ち感／授業の理解度／授業における活動内容／先生の授業での英語使用／勉強時間／学校外学習／習い事／学校の授業の予習・復習／英語の好き・嫌い／つまずき／英語の学習観／外国や英語との関わり／自主的に英語に触れる活動／英語の必要性／将来の英語使用、など。

### 【分析にあたって】

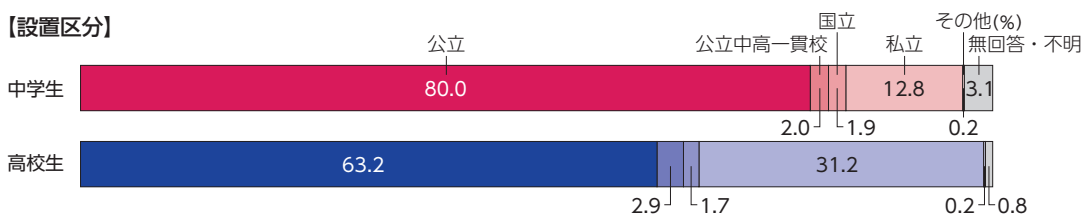
学校段階別の比較の精度を高めるため、分析時には全国の学年別生徒構成比（文部科学省「学校基本調査」参照）および進研ゼミ会員／非会員比が実際と等しくなるようにウェイトの設定を行った。以下、調査結果は、データにウェイトの設定をして集計したものである。

## 基本属性

### 【性別】

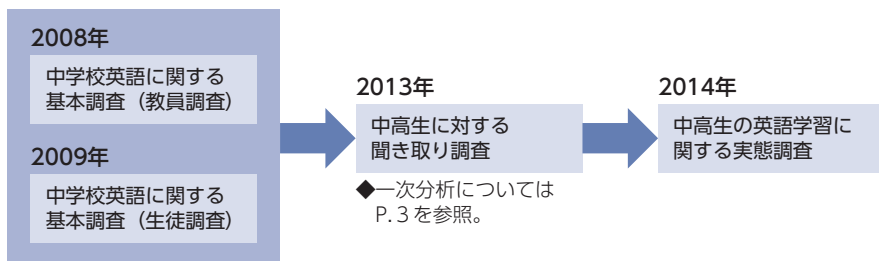


### 【設置区分】



## 調査の枠組み

●本調査の設計は、以下のように、量的研究と質的研究を交互に行うことによって明らかになった、実態や課題に基づいて行われている。



本調査（「中学生の英語学習に関する実態調査」）の設計は、2013年に行った「中学生に対する聞き取り調査」の分析により明らかになった中学生の英語学習の実態・課題に基づいて行った。聞き取り調査は、中2生8名、高2生8名、合計16名に実施した。ここでは、その一次分析から見てきたことを紹介する。

## 【普段の英語学習の様子】

- 伝統的な予習や宿題が中心
  - ・「左に本文、右に和訳」のノートやワークシートを多くの生徒が使っている。
  - ・授業中の言語活動と関連していると思われるような学習は生徒からほとんど述べられない。
  - ・大学の「英語科教育法」の授業では紹介されないような訳読中心などの方法で指導を受けている。
- 英語の授業に対する意識には生徒によって違いが見られる。
  - ・中学生は授業をおおむね受け入れている。
  - ・授業の中で行うことに、自分なりにその意義を見出そうとして、納得しながら勉強している生徒もいる。
  - ・高校生の中には、今受けている授業を批判的に捉えている生徒もいる。
- 学校での勉強が、学校外での学習を規定する割合が大きい。
  - ・日々の学習は、学校の予習・宿題、テスト対策がほとんどである。
  - ・中学生だけでなく高校生も、家庭での学習は授業の予習（本文写し、単語の意味調べ、本文和訳など）や小テスト対策の勉強が大部分を占めていると思われる。
- 先生の影響が大きい。先生との関係性が影響している。
  - ・先生の指導通りに学習を行っている生徒が大部分である。
  - ・先生との良好な関係により、英語に対して積極的に取り組んでいる生徒も多い。

## 【英語に関する意識】

- 子どもにとって「英語ができる」ということは「長文読解力が高い、文法がわかる」ということ。
  - ・多くが、「話す」「聞く」などは、大学に行ってからやればいい、と考えている。
  - ・英語を実際に使うということを前提とした英語学習観が欠如している。
  - ・話すためには、まずは文法や単語が大切だと強く思っている。
- 「将来英語を使うこと」と「今やっていること」の乖離がみられる。
  - ・将来、英語を使って仕事をしたいと考えている一人の生徒が、それに向けて今やるべきことは、「スペリングミス無くすこと」と答えた。
  - ・英語を使って仕事をしてみたいと思っても、英単語の練習の際に日本語訳も一緒に書いて覚えていたり、本文を書き写すのに2時間かけていたりする生徒もいる。

## 【その他】

- 学校外での英語学習を始めたきっかけはそれぞれ異なる。
  - ・英語学習を始めたきっかけはそれぞれ違う。必ずしも大きいきっかけばかりではない。  
例) 修学旅行で外国人に道を聞かれた、小さいころ祖母にABCの歌を歌ってもらって興味をもった、など。
- 学校の学びに終始している生徒が多いようだが、その中でも学習における小さな自律の芽もある。
  - ・同じ予習でも、やり方を自分で考え、選択して行っている生徒もいる。
  - ・自ら英語のプレゼンテーションの番組を見たり、洋楽を聴いたり（歌詞の聞き取りを意識したり、歌詞カードを見たり）という学びもある。

- ◆ 二次分析では、質的研究法であるThinking at the Edge (TAE) にて分析  
⇒ 分析結果の一部は、2013年度ARCLE\*シンポジウムにて報告  
本聞き取り調査や分析結果については[http://www.arcle.jp/report/2013/0005\\_3.html/](http://www.arcle.jp/report/2013/0005_3.html/)参照  
\* ARCLE ベネッセ教育総合研究所が運営する英語教育研究会

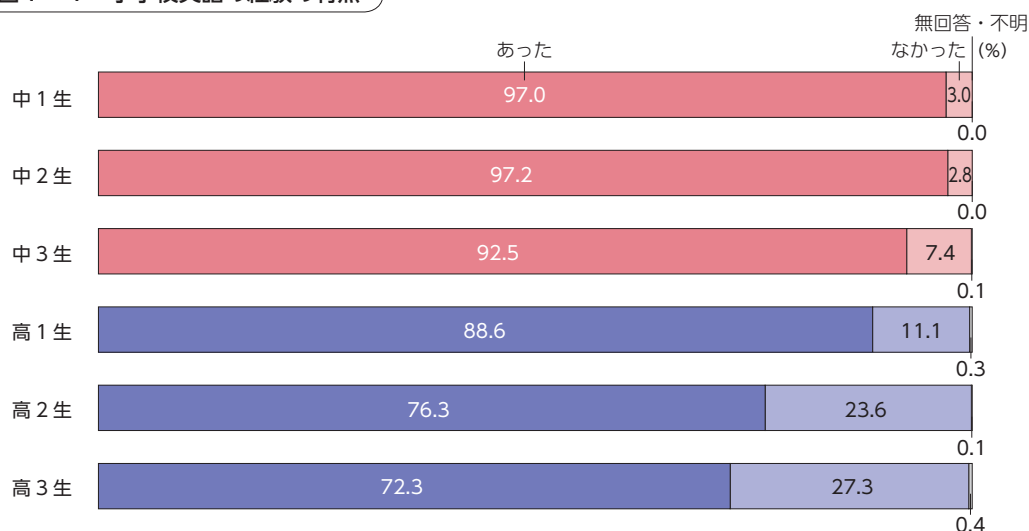
# 1. 中学校入学前の英語学習

## 小学校英語を経験した約7割が、小学校英語について「外国や英語に興味をもつこと」に役立ったと感じている。

小学校英語の経験の有無は学年によって差があるが、現行の学習指導要領の告示(2008年3月)前に小5生、小6生だった高2生、高3生も7割以上が英語の授業や活動が「あった」と回答。どの学年でも、「外国や英語に興味をもつこと」「英語を聞くこと」について5割以上が役立ったと感じている。

**Q** あなたが小学生のとき、学校で英語の授業や活動はありましたか。

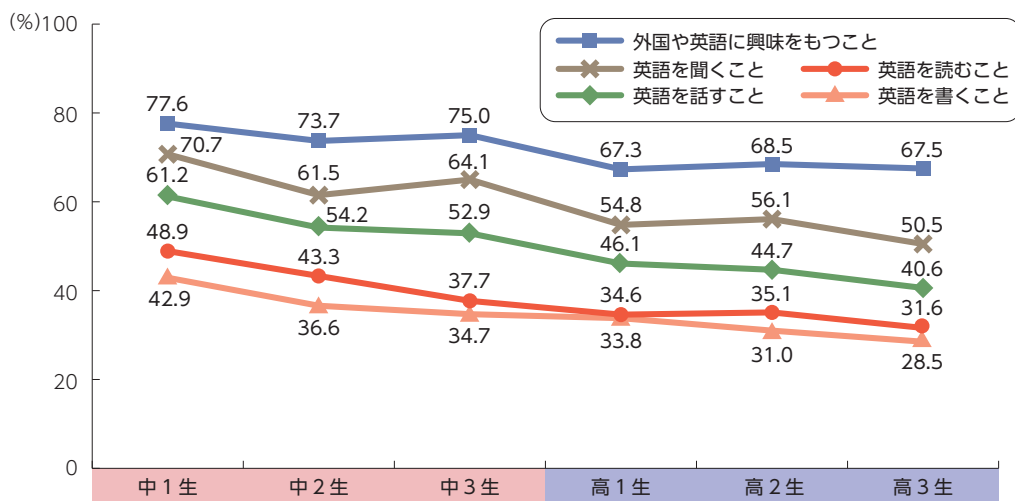
図1-1 小学校英語の経験の有無



\*各学年と教育制度との関係については、P.7を参照。

**Q** 小学校での英語の授業や活動をふりかえて、次のようなことにどれくらい役立っていると思いますか。

図1-2 小学校英語の役立ち感



\*「とても役立っている」+「まあ役立っている」の%。

\*小学校英語の経験の有無について「あった」と回答した人のみ回答。

## 約4割が中学校入学前に学校外での英語学習経験がある。

いずれの学年も、約4割が中学校入学前に学校の授業以外で英語や英会話の勉強をしている。それに対して「役立っている」という実感も強い。



あなたは中学校に入学する前(小学生のときやそれ以前)に、学校の授業以外で英語や英会話の勉強をしていましたか。

表1-1 学校外での英語学習経験の有無・種類

(%)

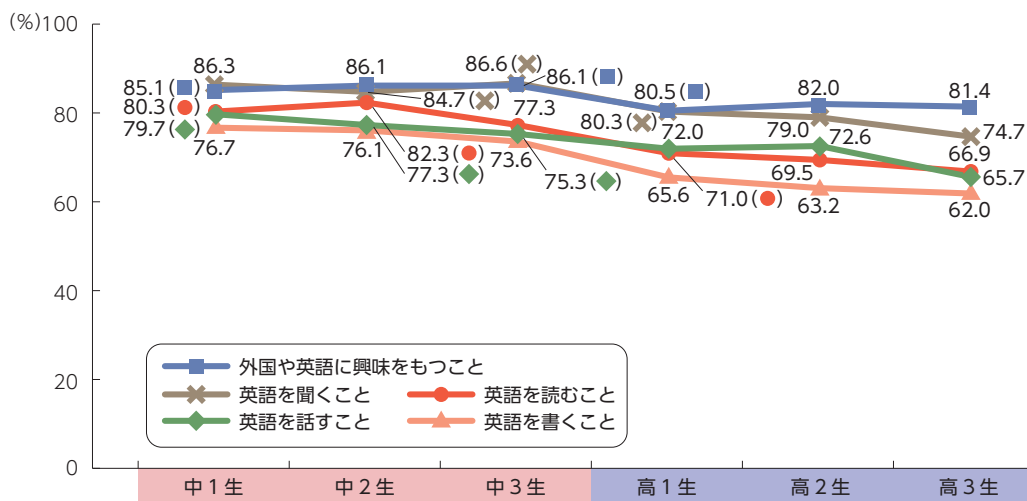
		中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	高3生
学校外での英語学習	していた	47.3	44.5	41.7	40.7	42.1	42.1
	していなかった	51.7	54.1	56.3	56.7	56.5	56.6
学校外での英語学習の種類	幼稚園や保育園	13.7	10.3	15.4	11.9	11.1	9.6
	英会話教室	48.0	49.9	54.2	59.4	57.7	53.6
	学習塾	41.7	36.9	36.1	32.0	33.3	39.1
	通信教育の英語教材	11.5	12.6	11.9	8.1	9.0	8.1
	書店で売られている教材	5.2	4.6	4.0	3.8	4.0	2.9
	インターネット教材	3.8	2.7	3.5	2.1	1.9	2.9
	家庭教師	2.0	2.7	2.0	1.9	2.8	3.2
	家族に英語を習っていた	4.8	3.8	2.4	2.1	3.3	2.2
	その他	4.2	4.4	3.5	1.9	3.8	2.5

\*学校外での英語学習の種類は、中学校入学前の学校外での英語学習を「していた」と回答した人のみの%。複数回答。



学校の授業以外の英語や英会話の学習をふりかえって、次のようなことにどれくらい役立っていると思いますか。

図1-3 学校外学習の役立ち感



\*「とても役立っている」+「まあ役立っている」の%。

\*中学校入学前の学校外学習を「していた」と回答した人のみ回答。

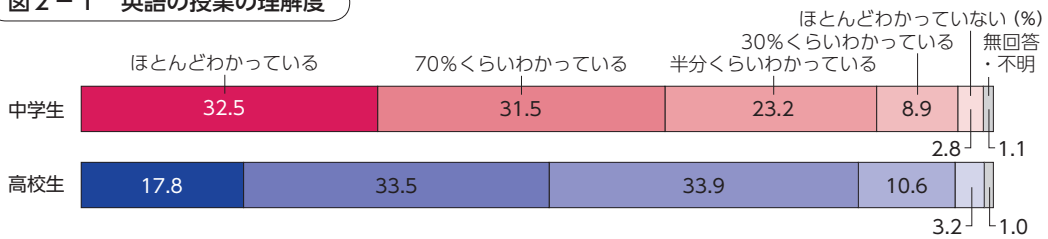
## 2. 現在の英語学習

### 授業中に自分の気持ちや考えを英語で「書く」「話す」は中2生をピークに減少。

授業について「ほとんどわかっている」という回答は、中学生で3割強だが、高校生では2割弱となる。授業でしていることは、「訳す」「覚える」「先生の説明を聞く」「文法の問題を解く」は学年を問わず7割以上が「している(よく+ときどき)」と回答。一方で自分の気持ちや考えを「書く」「話す」は中2生をピークに減少している。

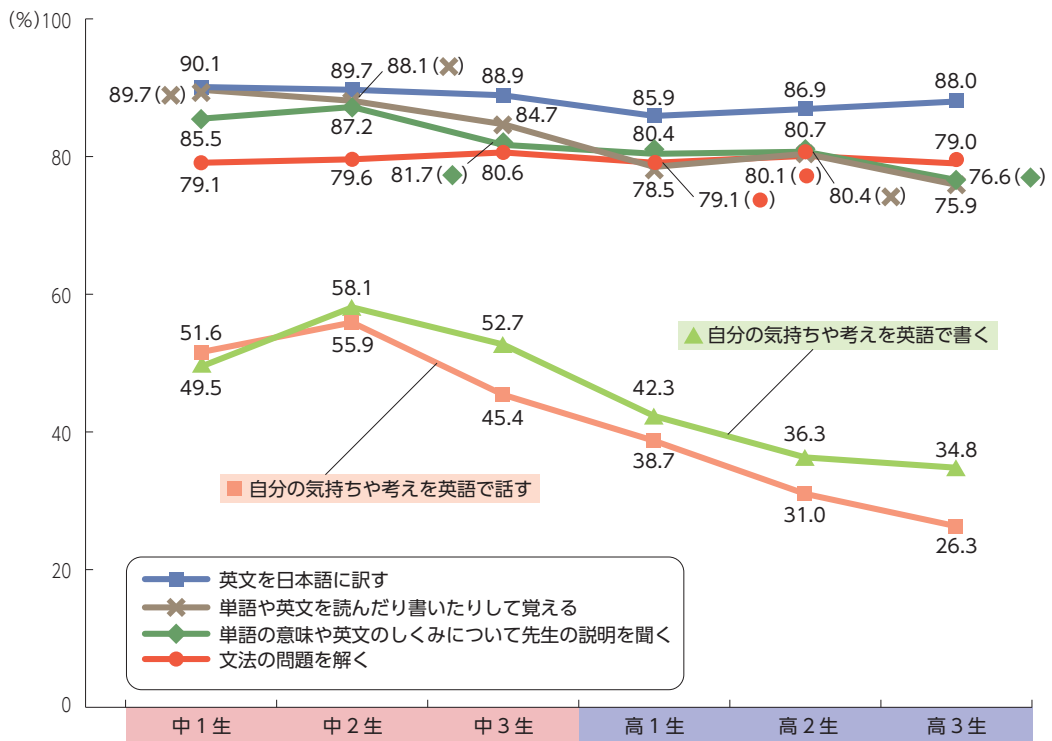
Q あなたは、学校の英語の授業をどれくらい理解していますか。

図2-1 英語の授業の理解度



Q 学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていましたか。

図2-2 授業でしていること



\*「よくしている」+「ときどきしている」の%。

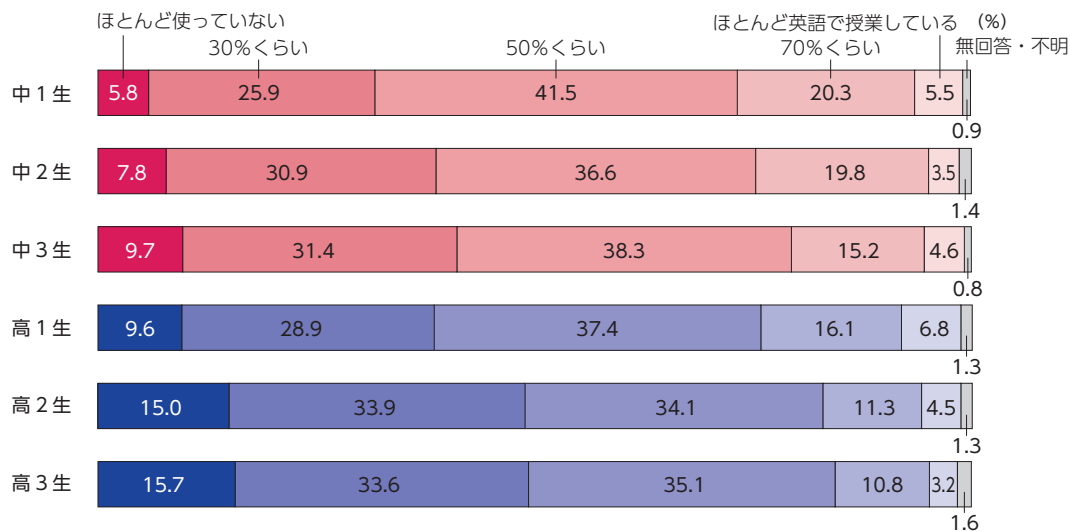


## 先生が授業で英語を使っている割合は、中学校の方が多い。

先生が英語を半分以上使って授業を進めている割合は、全体では中学校の方が高いが、学年別にみると中高とも1学年に多い。

**Q** 英語の授業で、日本人の先生はどれくらい英語を使って授業を進めていますか。

図2-3 先生の英語使用割合



### 関連資料：教育制度の動きと調査対象学年との関係

	小学校	中学校	高校	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	高3生
2006年度					小1生	小2生	小3生	小4生	小5生
2007年度	2008年3月 告示	2008年3月 告示		小1生	小2生	小3生	小4生	小5生	小6生
2008年度				小2生	小3生	小4生	小5生	小6生	中1生
2009年度	移行措置期間	移行措置期間	2009年3月 告示	小3生	小4生	小5生	小6生	中1生	中2生
2010年度				小4生	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生
2011年度	完全実施			小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	高1生
2012年度	小5生、小6生「外国語活動」必修化、週1時間、共通教材「英語ノート」	完全実施		小6生	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生
2013年度		週3時間から週4時間に。900語→1200語へ	実施	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	高3生
2014年度			第一学年から年次進行。「授業は英語で」	中2生	中3生	高1生	高2生	高3生	大学1
2015年度				中3生	高1生	高2生	高3生	大学1	大学2
2016年度				高1生	高2生	高3生	大学1	大学2	大学3
2017年度				高2生	高3生	大学1	大学2	大学3	大学4
2018年度				高3生	大学1	大学2	大学3	大学4	
2019年度				大学1	大学2	大学3	大学4		
2020年度				大学2	大学3	大学4			

本調査調査対象

## 家での英語学習は「学校の勉強(宿題、予習、復習など)」が中心。

家庭学習では、中学生で8割、高校生で7割が「学校の勉強(宿題、予習、復習など)」をしていると回答。学校外での英語学習(塾や習い事)のうち「学習塾」は、中高生ともに学年が上がるにつれて増加している。

**Q** あなたは現在、家ではどのような英語の勉強をしていますか。

表2-1 学校外での英語学習(家庭学習)

(%)

	中高別		学年別					
	中学生	高校生	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	高3生
学校の勉強(宿題、予習、復習など)	80.9	70.0	84.4	83.8	74.6	78.0	74.2	56.8
塾や英会話教室などの勉強(宿題、予習、復習など)	44.8	18.2	40.9	43.1	50.4	15.1	18.7	21.1
通信教育	14.2	6.2	17.4	14.4	11.0	6.2	6.7	5.8
書店で売られている教材	14.2	15.9	13.3	12.6	16.6	8.3	15.0	24.9
テレビやラジオの英語講座	6.4	2.5	7.3	6.6	5.4	2.2	2.4	2.8
インターネットの英語教材	1.0	1.3	1.2	1.1	0.5	1.4	0.7	1.9
その他	1.8	2.0	1.4	1.4	2.5	1.5	1.4	3.0
していない	9.0	21.6	7.0	8.5	11.3	17.5	19.3	28.4

\*複数回答。

**Q** あなたは現在、学校以外の塾や習い事で、次のような英語の勉強をしていますか。

表2-2 学校外での英語学習(塾や習い事)

(%)

	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	高3生
学習塾	40.2	47.0	53.7	16.0	22.1	24.3
英会話	9.0	6.6	4.1	3.2	2.6	2.5
家庭教師	2.5	2.7	3.9	1.1	1.8	1.6
その他	2.2	1.3	1.5	0.8	1.0	0.5
していない	49.7	44.7	38.9	79.2	72.7	71.6

\*複数回答。



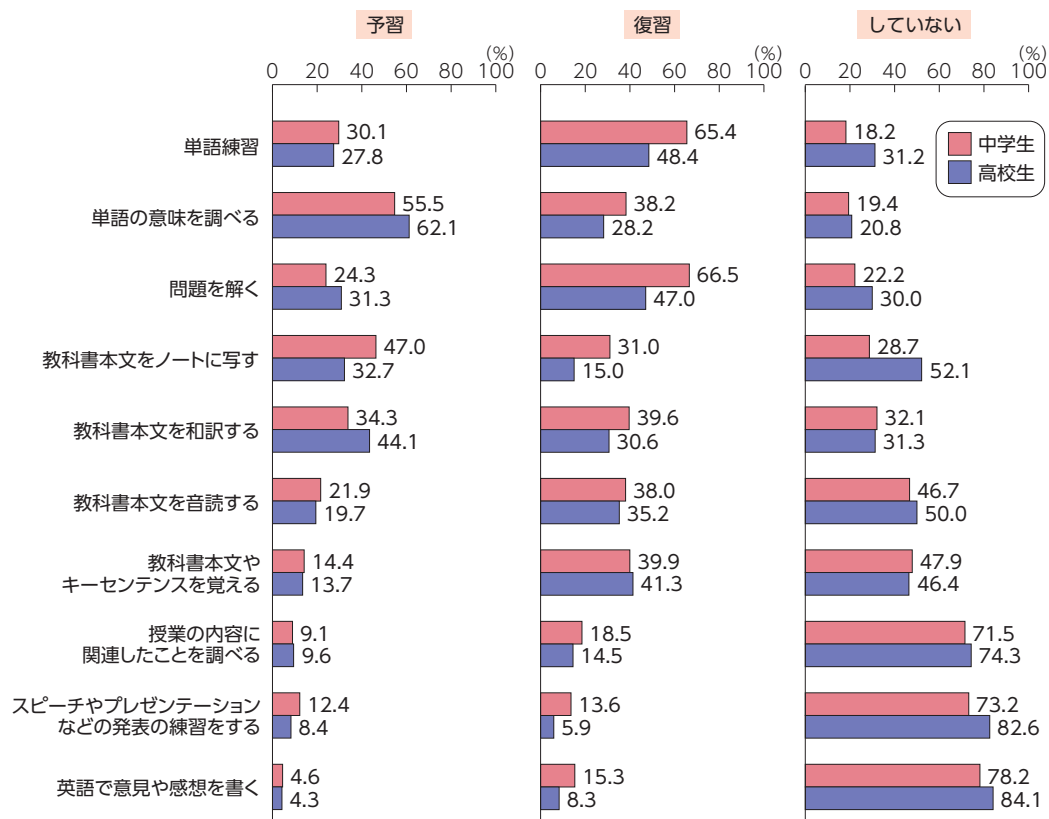
## 授業の予習・復習でも、単語学習・和訳・暗記中心。

授業の予習・復習は、中学生と高校生で傾向がほぼ同じで単語学習や和訳、暗記が中心。中高生ともにもっとも多くやっている予習は「単語の意味を調べる」。一方で、「英語で意見や感想を書く」は約8割の中高生が「していない」。



あなたはふだん、学校の英語の授業のためにどのような勉強をしていますか。

図2-4 授業の予習・復習



### 中学生の予習・復習TOP3

#### 【予習】

- 第1位 単語の意味を調べる (55.5%)
- 第2位 教科書本文をノートに写す (47.0%)
- 第3位 教科書本文を和訳する (34.3%)

#### 【復習】

- 第1位 問題を解く (66.5%)
- 第2位 単語練習 (65.4%)
- 第3位 教科書本文やキーセンテンスを覚える (39.9%)

### 高校生の予習・復習TOP3

#### 【予習】

- 第1位 単語の意味を調べる (62.1%)
- 第2位 教科書本文を和訳する (44.1%)
- 第3位 教科書本文をノートに写す (32.7%)

#### 【復習】

- 第1位 単語練習 (48.4%)
- 第2位 問題を解く (47.0%)
- 第3位 教科書本文やキーセンテンスを覚える (41.3%)

\*「ふだん、学校の英語の授業のためにどのような勉強をしていますか」という問いで、「予習として」「復習として」「していない」のうちあてはまるものすべてに回答してもらったもの。

### 3. 英語学習に対する意識

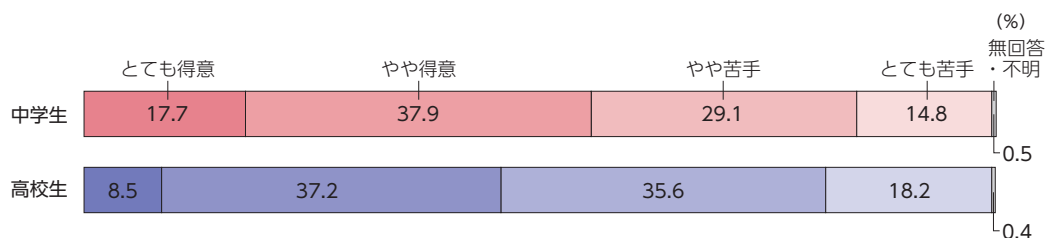
英語が苦手になる時期は、「中1の前半」から「中2の後半」までと「高1の前半」の2回。

中学生の半数以上は英語が「得意(とても+やや)」だが、高校生の半数以上は「苦手(やや+とても)」と回答。さらに、苦手になる時期には「中1の前半」から「中2の後半」までと「高1の前半」の大きく2回のピークがある。



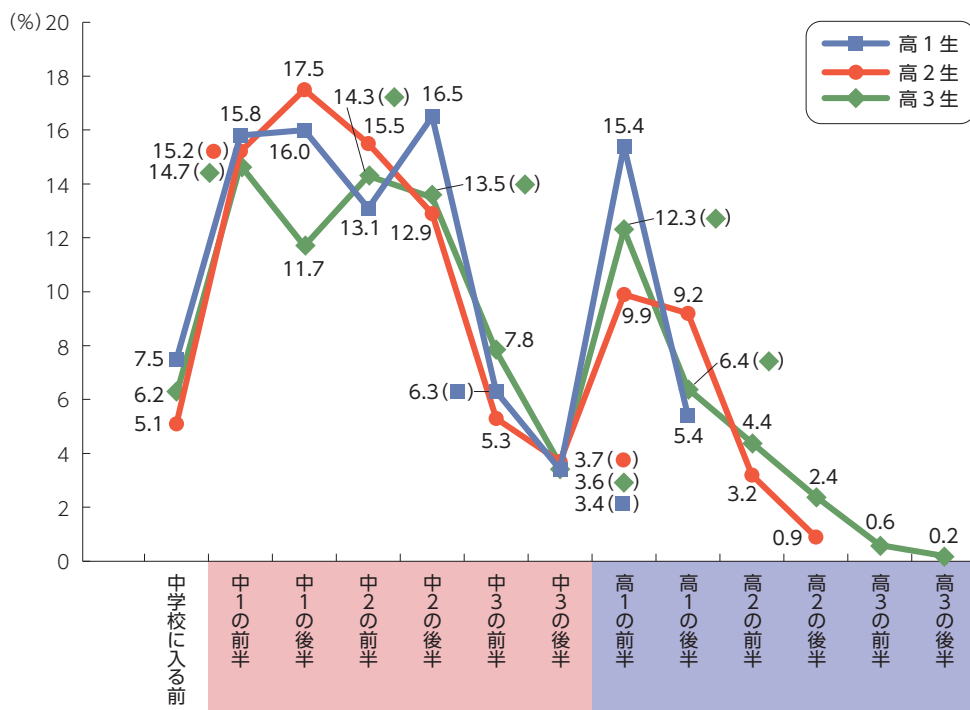
あなたは英語が得意ですか、苦手ですか。

図3-1 英語の得意・苦手



あなたが、英語を苦手と感じるようになったのはいつ頃からですか。

図3-2 英語を苦手と感じるようになった時期



\*英語の「得意・苦手」について「やや苦手」「とても苦手」と回答した人のみ回答。

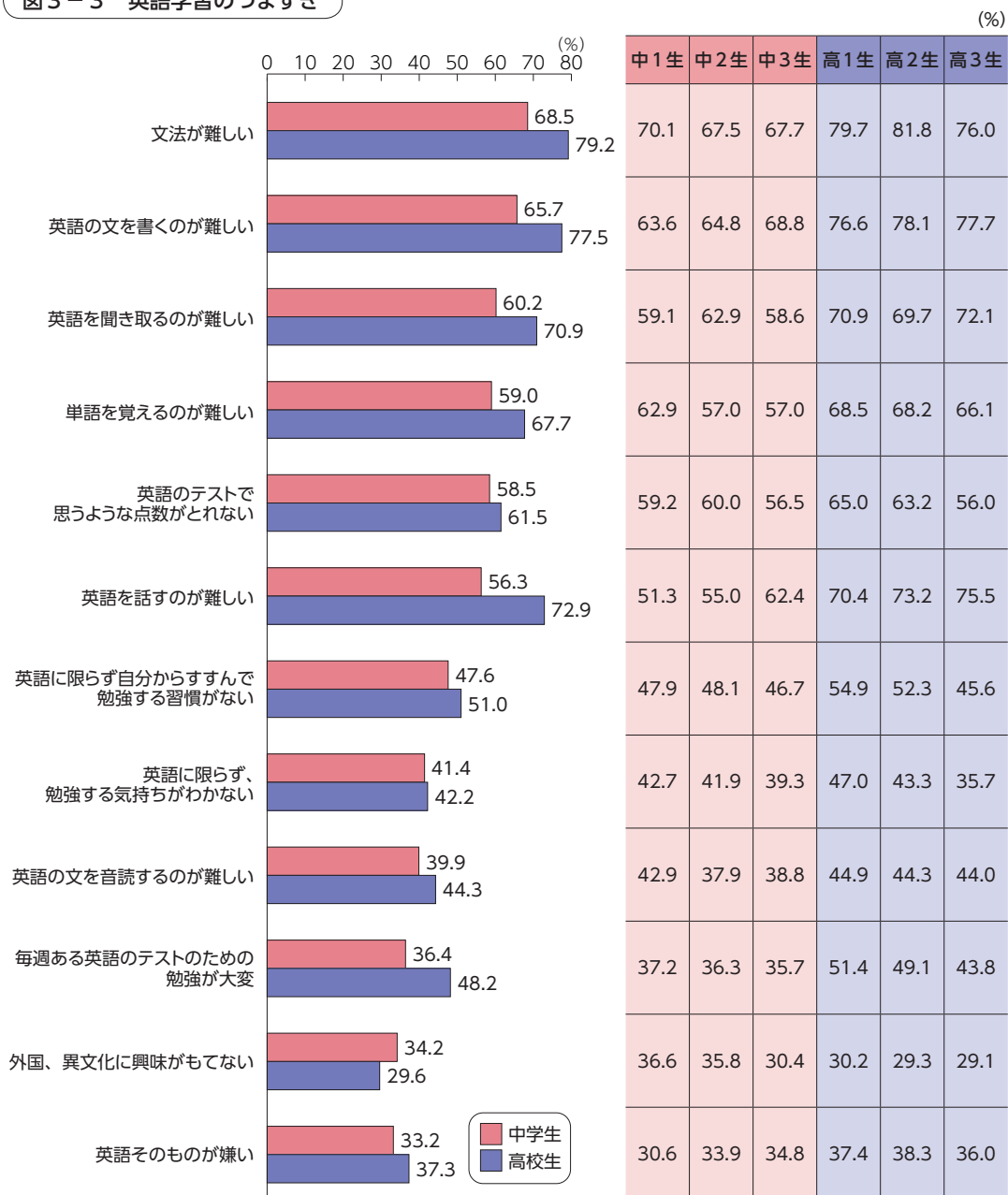
## 中学生よりも高校生に学習上のつまずきが多い。

中学生よりも高校生に学習上のつまずきが多く、「英語を話すのが難しい」「英語の文を書くのが難しい」「毎週ある英語のテストのための勉強が大変」「英語を聞き取るのが難しい」で10ポイント以上の差がある。また、とくに、中3生と高1生とでその差が広がっている。



英語の学習にかかわることについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図3-3 英語学習のつまずき



\*「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

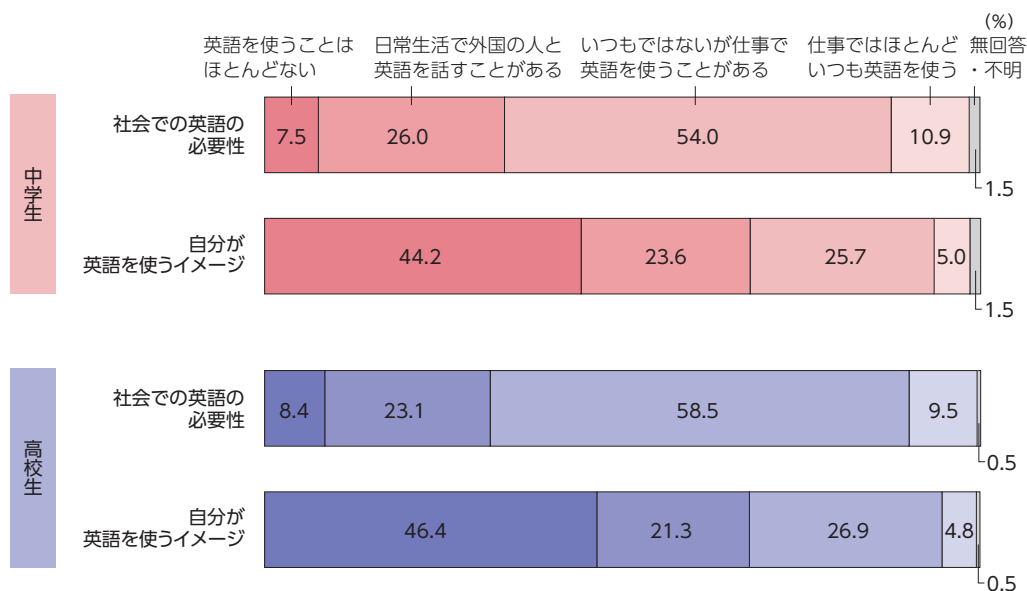
## 4. 英語に関する意識や関わり

### 英語の必要性は認識しているも、自分が使うイメージは低い。

中高生ともに、将来の社会での英語の必要性は感じている一方で、自分自身が「英語を使うことはほとんどない」という回答が4割以上。

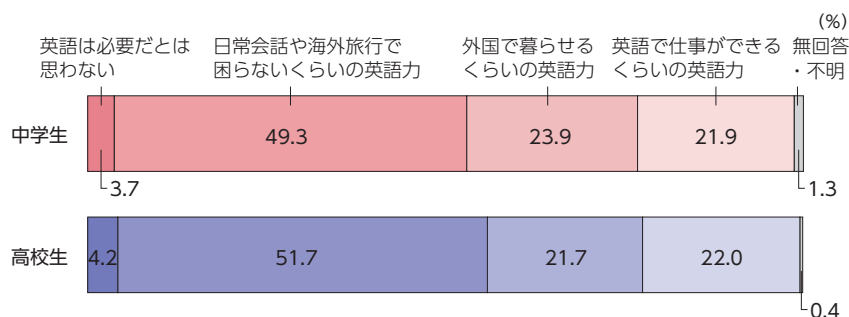
**Q** あなたが大人になったとき、①社会ではどれくらい英語を使う必要がある世の中になっていると思いますか。また、②あなた自身はどれくらい英語を使っていると思いますか。

図4-1 社会での英語の必要性と自分が英語を使うイメージ



**Q** あなたは将来、どれくらいの英語力を身につけたいですか。

図4-2 身につけたい英語力



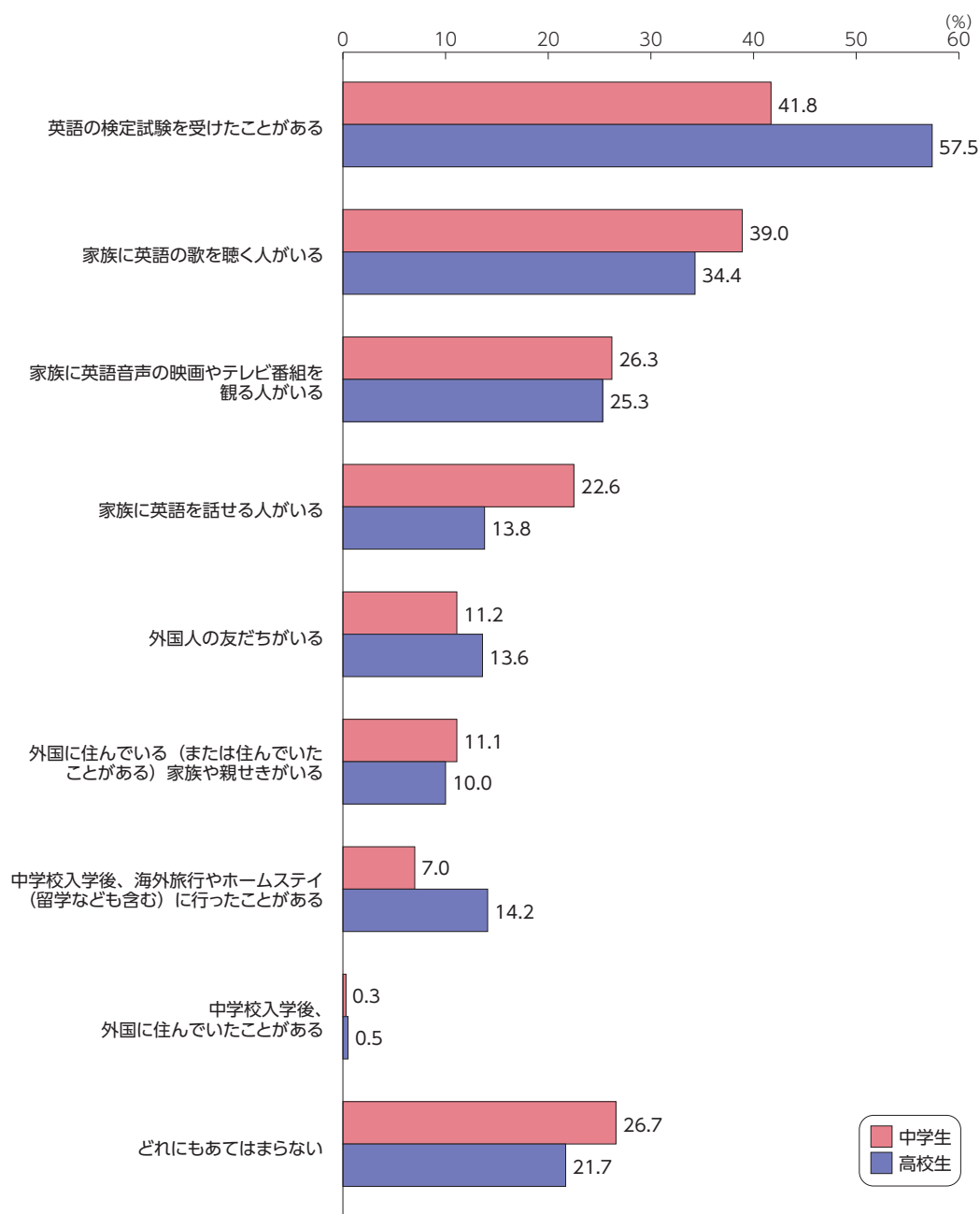
## 「海外旅行やホームステイに行ったことがある」は1割前後。

「英語の検定試験を受けたことがある」は中学生で41.8%、高校生で57.5%と最も高いが、「外国人の友だちがいる」や「海外旅行やホームステイに行ったことがある」など直接外国人や外国の生活・文化と触れる経験は少ない。



あなたと外国や英語との関わりについて、次のようなことはあてはまりますか。

図4-3 外国や英語との関わり



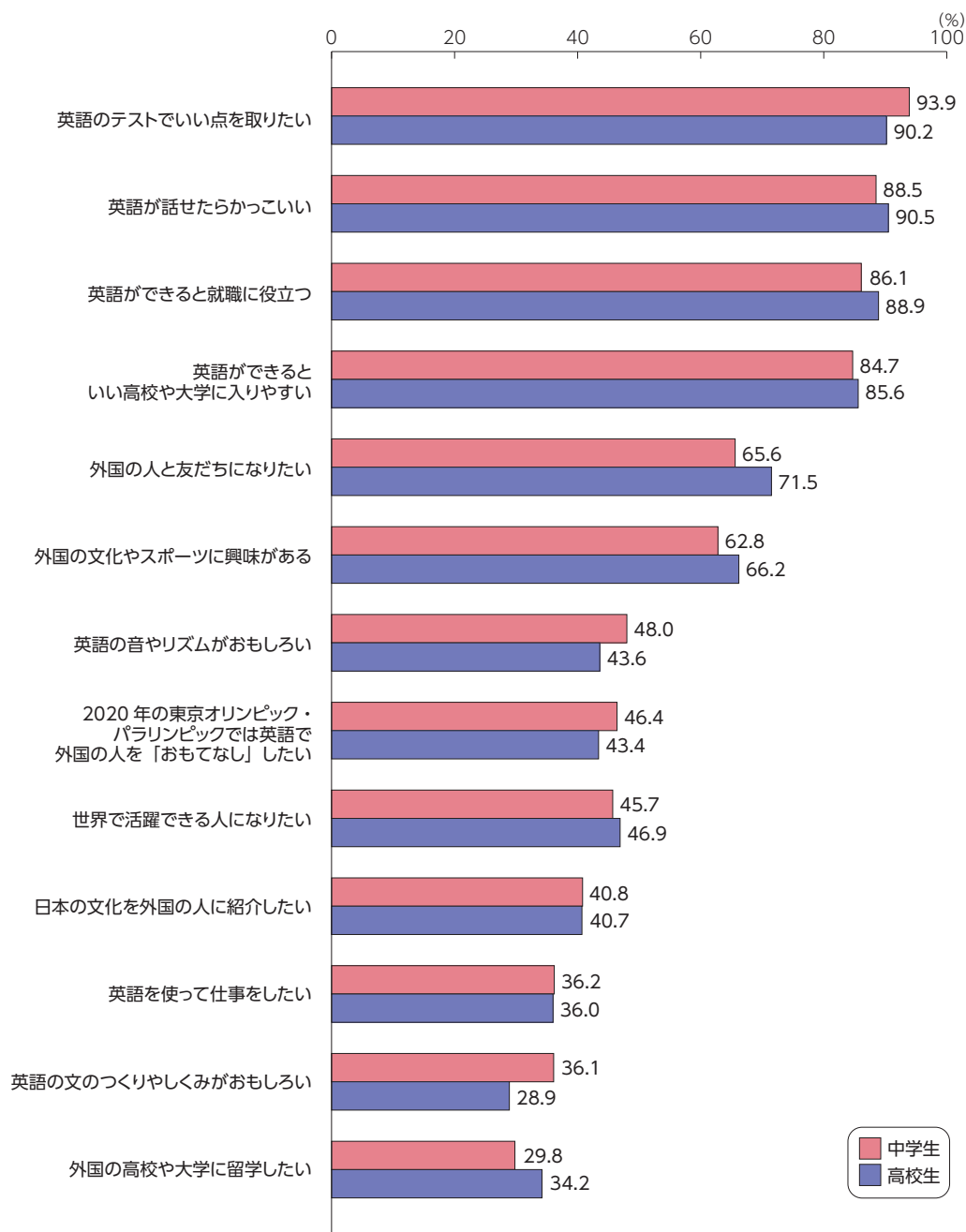
\* 複数回答。

## 中高生は約9割が「英語が話せたらカッコいい」。

「英語のテストでいい点を取りたい」に続き、中高生の約9割が、「英語が話せたらカッコいい」と感じている。また、「外国の人と友だちになりたい」は高校生の方が5.9ポイント高いが、「英語の文のつくりやしきがおもしろい」は中学生の方が7.2ポイント高い。

Q あなたは、以下のことについてどう思いますか。

図4-4 英語に関する意識



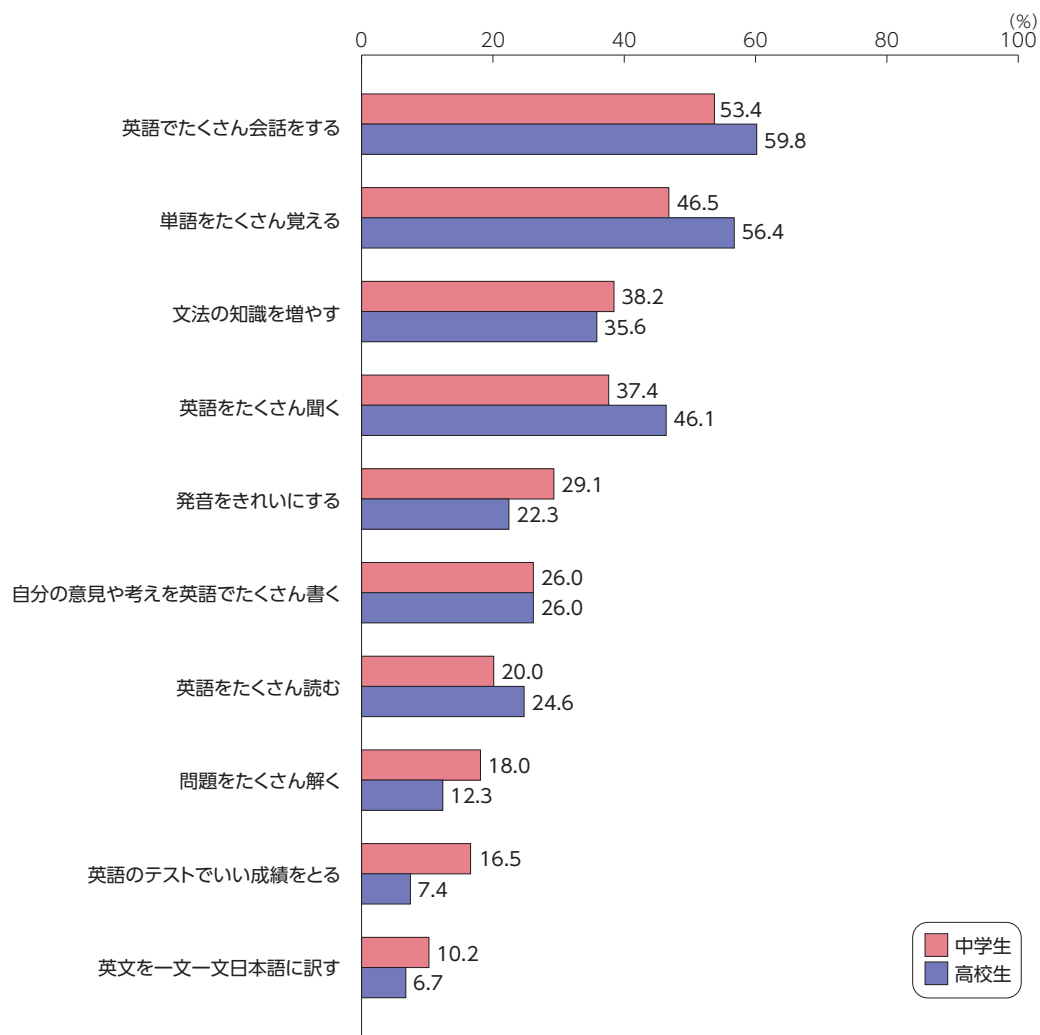
\*「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

## 英語の勉強で大切なことは「英語でたくさん会話すること」。

英語を勉強する上で大切なこととして、中高生ともに「英語でたくさん会話すること」を選択している割合が高い。一方で、「英語のテストでいい成績をとる」「英文を一文一文日本語に訳す」を大切だと考えている中高生は少ない。

Q 英語を勉強する上で大切なことは何だと思いますか。

図4-5 英語を勉強する上で大切なこと



\* 10項目中3つまで選択。



## 中高生の英語学習に関する実態調査 2014

### 調査企画・分析メンバー

根岸 雅史	(東京外国語大学教授)
酒井 英樹	(信州大学教授)
高木 亜希子	(青山学院大学准教授)
重松 靖	(国分寺市立第二中学校校長)
工藤 洋路	(駒沢女子大学専任講師)
木村 治生	(ベネッセ教育総合研究所 初等中等教育教育研究室室長)
加藤 由美子	(ベネッセ教育総合研究所 グローバル教育研究室主任研究員)
福本 優美子	(ベネッセ教育総合研究所 グローバル教育研究室研究員)

※所属・肩書は、調査企画・分析時のものです。

ベネッセ教育総合研究所グローバル教育研究室で  
実施している各調査の結果は、  
すべて以下の WEB サイトで閲覧できます。

<http://berd.benesse.jp/global/>

こちらのサイトは **ベネッセ グローバル教育研究室** **検索** で検索できます。

※ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでは、ベネッセ教育総合研究所で実施している  
各種調査の結果もご覧いただけます。

#### ● お問い合わせ先 ●

本調査に関するご意見・ご感想・お問い合わせは、下記までお願いいたします。

(株)ベネッセホールディングス ベネッセ教育総合研究所

「中高生の英語学習に関する実態調査」係

TEL:042-311-3390 (10:00～17:00 / 土日・祝日を除く)

#### 「中高生の英語学習に関する実態調査2014」速報版

発行日：2014年10月1日 発行人：谷山和成 編集人：木村治生

発行所：(株)ベネッセホールディングス ベネッセ教育総合研究所

〒206-0033 東京都多摩市落合1-34

編集協力：(株)ジー・アンド・ピー

14EE02

©Benesse Educational Research and Development Institute

無断転載を禁じます。